

様式第3号(第12条関係)

審議会等の会議の記録

会議の名称	第2回 伊勢崎市みんなでつくる中心市街地にぎわい創出拠点検討委員会
開催日時	令和7年9月24日(水) 午後2時～4時
開催場所	地域交流センター赤石楽舎
出席者氏名	<p>【委員】 大下委員、稻葉委員、中村委員、黒田委員、佐嶋委員、中西委員、笠原委員、佐塚委員、木暮委員、町田委員、高山委員、菅家委員、青木委員、皆瀬委員、栗田委員、須田委員、高橋委員、千葉委員、茂木委員、矢島委員</p> <p>【市出席者】 星野企画部長、倉上企画部副部長、細野事務管理課課長、諸岡行政改革係長、吉田主査、玉河主査、田部井教育部副部長、和佐田図書館課課長、町田課長補佐、金井主査、石原商工労働課長、久保補佐、田村まちなか活性化係長</p> <p>【欠席】 吉田委員、栗原委員、齋藤委員</p> <p>(伊勢崎市中心市街地にぎわい創出拠点整備基本構想策定支援業務委託) 八千代エンジニヤリング株式会社3名 (市民ワークショップ等企画運営業務委託) まちづくりラボ・サルベージ株式会社1名</p>
傍聴人數	1人
会議の議題	<p>1 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 先進地視察のふり返り (2) 公民複合施設の規模のイメージと先進事例の事業費 (3) 高校生グループインタビュー及び市民WSの検討成果報告 (4) 検討委員会の議論の進め方について <p>2 検討事項</p> <p>図書館機能/織物産業伝承機能/民間機能(インキュベーション機能・利用促進機能)/その他機能(広場・駐車場など)について</p>
会議資料の内容	<p>【資料1】先進地視察のふり返り</p> <p>【資料2】公民複合施設の規模のイメージと先進事例の事業費</p> <p>【資料3】高校生グループインタビュー実施結果</p>

	<p>【資料4】市民ワークショップ実施結果 【資料5】検討委員会の議論の進め方について</p>
<p>会議における 議事の経過 及び発言の要旨</p>	<p>1 開会</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>報告事項4件（先進地視察のふり返り、公民複合施設の規模のイメージと先進事例の事業費、高校生グループインタビュー及び市民WSの検討成果報告、検討委員会の議論の進め方について）を一括して説明</p> <p>【質疑なし】</p> <p>(2) 検討事項</p> <p>図書館機能/織物産業伝承機能/民間機能（インキュベーション機能・利用促進機能）/その他機能（広場・駐車場など）について</p> <p><委員長></p> <p>議論に当たって確認しておきたいのは、市民ワークショップや高校生グループインタビューの成果報告や、3つの機能（図書館機能、織物産業伝承機能、インキュベーション機能）は柱とするということを踏まえて、検討委員会として提言書をまとめるための議論であること。</p> <p>各機能のコンセプトやサービスの方向性について、これでよいのかというのをもう少し詳細に検討して欲しい。事務局からも説明があったとおり市民ワークショップや高校生グループインタビューの成果を踏まえて、施設をどのように使いたいか、必要な機能としてどうか、展開すべき事業として配慮すべき事項などを整理して市長に向けて提言する。これまでご報告した資料と見比べながら、提言したいことなどを話してもらいたい。</p> <p>【検討・議論】</p> <p><委員></p> <p>高校生グループインタビューや市民ワークショップの意見を見させてもらったが、絞っていかないと施設全体がいろいろなものに対応したものになるイメージになってしまう。「にぎわい」とインキュベーションのニュアンスが合っているのかは気になるところ。インキュベーションは事業を孵化させるイメージだが、その部分を特化させるために、より意味があるものにするためには、もう少し仕事に寄ったものに絞っていく必要性があるのではないか。</p> <p>全体の意見をみていると、文化会館や生涯学習センターのように色々な方が多要素で仕事にこだわらず集まる場所が欲しいというような印象を受けるがそれでよいのか。</p>

<委員>

インキュベーション機能が欲しいというのがどこから来るのか。どんな施設なのかが漠然としていてイメージできない。インキュベーションを「にぎわい」の目的で議論するのに違和感があると思う。

<委員>

拠点完結ではなく拠点からのにじみだしが大切で、拠点での活動が周辺へと続していくものがインキュベーションであるとよいのではないか。拠点からのにじみだしが周りの活性化やまちづくりにつながっていくという見方をした方がよいと思う。

ウッドショックなどの影響で木材の値上がりが建設費上昇理由のひとつとされるが、もともとが安かった部分もある。できれば県産材の木材を使い、見栄えの良い施設ができるとよい。

<委員長>

後ほど議論したいと思うが、インキュベーションの捉え方を整理する必要がある。コミュニティビジネス的なものを含めたものにするのか、産業化していくためのインキュベーションとするのかによって施設に入ってくる機能や設備も変わってくる。どのあたりをイメージしているのかを後ほど聞いていきたい。

県産材の使用についてはアイデアとして整理していきたい。

<委員>

織物伝承機能について、伊勢崎銘仙に特化した明治館とは差別化した方がよいと思う。

明治館に来た方が新施設に、新施設に来た方が明治館に足を運ぶ仕掛けが必要ではないか。伊勢崎の歴史文化や人物を辿ると織物に関係する場合が多い。例えば町田佳聲のからりこ節など織物産業につながるものも集結・展開し、市民の皆さんに楽しんでいただけるものもあったほうがよいのではないか。

インキュベーションについて、市民ワークショップでは、どちらかというと市民活動で利用できるとよいという意見が多かった。ペットと訪れたくなる拠点を想定したときに、休日で見てもらえてところがない、飼い主同士の情報交換の場が欲しかったり詳しい方の話を聞きたいという意見があった。拠点内部に作るのはリスクがあるかもしれないが、ペット関連ビジネスの創業支援による周辺へのにじみだしの部分に新しいお店を持ってきてはいかがだろうかという声もあった。カフェが欲しいという意見も多かった。個人的には中にあった方がよいと思う。新たにカフェをやってみたいという方が、伊勢崎でしか味わえないコーヒーの提供などがあるとよいと感じた。

<委員>

図書館機能は床面積の算定の中で共用部分が30%とされているが、実質的にどのくらいの割合を必要とするかが時代によって違うと思うので、意見把握する中で再度検討してもらいたいと思

う。

織物産業が中心になるのは伊勢崎の歴史から見てもよいと思うが、そこから先の伊勢崎の発展は、様々な工業団地ができて発展するという意味で、産業の取り方が、織物だけでなくほかの産業に発展していることを示すことができた方がよいのではないかと思う。それを示すことで、インキュベーションへの繋ぎにもなるのではないかとも思う。

広場・駐車場の優先はどう考えているか。仮に平場で200台と考えると5,000m²くらい必要なのではないか。広場規模をどのくらい求めるかによって、駐車場を立体にするなども考えなくてはならない。駐車場の活用にしてもまわりのお店もある中で、有料化の検討やまちなか利用者を対象にした駐車場としてのあり方を考えたらどうか。

<委員長>

図書館の蔵書冊数との割合ではなく、図書館そのものがもう少しゆとりのある開架スペースを考えもらいたいという意見と捉えてよいか。

<委員>

そのとおり。

<委員長>

織物産業伝承機能はインキュベーションとの話の中でも議論したいと思うが、織物に限らず産業に関することも考えたほうがよいというのは市民ワークショップの意見でもあった。その辺りも含めて後ほど議論したい。

広場に関してはそのとおりで、駐車場からはよほどのことがない限り収益・にぎわいは生まれてこない。駐車場がなければ人が来ないのかというかというとそうでもない。かといって非常に楽しい拠点になってしまったら、駐車場を用意しても回転率が悪くなる。そういう意味ではすごく固定化された空間になってしまふため、やはり広場と駐車場のバランスが大事である。市民ワークショップとしては、広場が狭くなるくらいなら駐車場を減らしてもよいという考え方がある。どのくらい必要かというのも難しい話だが、広場は様々な時間帯や曜日によっての使い分けができるので、そんなに広いものでなくてもよい。

市民ワークショップの結果を踏まえて、市の提案としては赤石楽舎の前の広場空間がある。本来は使ってる場所が違うから使ってはダメというのが今までの公共でよく言われていた話だが、拠点と赤石楽舎間の道路を一般道路ではなく、施設の中を横切る道路のように遠慮しがちに走ってもらうような舗装に変えるなど、様々なことを考えて連続性を意識した配置イメージになっている。その辺りも踏まえて後ほどインキュベーションの次に議論していきたい。駐車場料金のことも検討委員会の中でご意見をいただければと思う。

インキュベーション機能、インキュベーションに絡めた織物産業伝承機能、駐車場と広場の関係、駐車場料金などについて、後

ほど議論いただきたい。

<委員>

旧町村（赤堀、あずま、境）にも図書館があるが、どう使い分けができるかがポイントで新図書館に来なければならぬというものをどれだけ作れるかがポイントかと思う。図書館は近くにあるところを使うのが基本かと思うが、中心市街地までこななければならないということを考えた時に、文化的な機能や情報発信機能など広げていく必要があると思う。

図書館をただ作ればよいというものではなく、塩尻市市民交流センターえんぱーくで感じたのは、やはりそこで働く人だと思う。人がどんな工夫をして運営しているかが重要だと思う。そう意味で図書機能が従来のものではなく、アイデアのある図書館を作っていく必要があると思う。そこが核となって「にぎわい」を作れるということだと思う。

様々な機能を盛り込む必要があるのか。カフェなどは中にある必要はないのではないか。拠点以外でも作れる施設は、周辺に整備できるような環境を行政が作っていく姿勢を示すことが大事かと思う。伊勢崎市は前橋市や高崎市に比べて都市圏が狭いこともあり、すべてを網羅的に集約させるという発想ではなく、ここに来てみたいとなるようなターゲットを絞った形を考えていった方がよいと思う。

<委員>

毎日散歩しているが、図書館は休館日がある。新図書館ができたときに休館日がどうなるかは気になる。

周辺との関係だが、夜8時過ぎると駅周辺はだれも歩いていない。駅周辺の道路整備をやっているせいか道も真っ暗な状況。道が整備された場合に、伊勢崎駅、新しい図書館、本町通り、くわまるプラザなどを歩いて移動できるようなまちづくりが一緒にできるとよいと思う。

<委員長>

新しく作るのなら、旧町村からも来てもらえるような特徴づけも考えて欲しいという意見が出たが、事務局でよく考えてもらえばと思う。

休館日や職員の方の運営のあり方やいせさき明治館の運営については、今後行政で検討されると思う。高校生グループインタビューでも開館時間を長くしてもらいたいという意見もあり、市民ニーズに対応したものを考えてもらいたい。

歩いて楽しめるというのは非常に大事なところで、中心市街地に「にぎわい」を生み出すというのは市としても重要課題であり、関連する複数の部署が検討委員会に同席しているのもその表れだと思う。国土交通省もウォーカブルなまちづくりを始めているので、そういうものも絡みながら基盤も整えつつソフト部分、制度的な部分も加えながら拠点のみならずまわりにも波及できるような形で進めてもらいたい。

<委員>

図書館のあり方と市民交流のあり方は方向が違うと思うので分けて検討してはどうか。図書館として検討しなくてはならないことがいろいろあると思う。市内に4箇所の図書館がある中で、蔵書のボリュームだけでなく、図書館法に基づく特有の問題があるのでないか。塩尻市市民交流センターえんぱーくのような複合施設のあり方や那須塩原市図書館みるるのような図書館中心の施設のあり方はちょっと違うような気がしている。新しい図書館のあり方は少し専門的にやらないとならないのではないか。さまざまな機能を考えている中で、分けて考えて最後にまとめてもらえるとよいのではないかと思う。

<委員長>

市民ワークショップや高校生グループインタビューで出た意見をすべて実現しようという話ではなく、どんなものがあったらよいかという中でアイデアをいただいたもの。

市民ワークショップでは、全体的なイメージとしては、広場イメージが確保できるのではないかというのがあった。どうすれば「にぎわい」が生み出せるかというところをメインでディスカッションされており、その部分を考えていくと広場面積が広がっていき、駐車場面積との兼ね合いが大事だという話に繋がっている。高校生グループインタビューでは、拠点内にカフェがなくても、売りに来てくれればよいという考え方からキッチンカーやワゴンでよいのではという意見も出ている。程度はいろいろあると思うが、飲食機能も検討をしてもらいたいということを提言するかどうか。

図書館機能については、先ほども委員からあったとおり、ほかの図書館と比べてどこが特徴的なのかということについてもう少し研究を深めてもらいたいというのは提言に加えてもよいかと思う。

<委員>

市民ワークショップの中で多文化交流に関する機能をなにか持たせることができたらよいという意見があった。近隣の図書館と差別化できるものだと思う。

議論するときに市民ワークショップの時はターゲットを明確にした。だれもが利用しやすいというのは着地点が見えないという観点から、学生、子育て世代、働いている方、シニア層とそれぞれのターゲットによって利用の仕方も違うし、利用する曜日も違ってくる。土日だけでなく平日にもぎわえるような施設を目指すのがよいと思う。それぞれのターゲットが心地よいと思えるものを併せて議論するのがよいと感じる。

<委員>

世代間交流について、高校生グループインタビューを重点的に見てきたが、若い人たちにとっては一番重要なポイントになってくると思っている。防音装置などは枝葉の部分であり誘い合う

きっかけでしかなく、拠点でどういう風な関係性ができるかというのが重要で、コミュニティができるから行ってみようとなるし定着する。若い世代にとって重要な世代間交流というのをポイントとしてみたらよいのではと思う。

この拠点に滞在して欲しいのか、入れ替わって欲しいのかも考えた方がよい。ずっといて欲しい、いられる場所にして欲しいというのは交流に影響を及ぼすと思う。

<委員>

「にぎわい」のイメージに認識の違いがあるように感じる。自分にとっての「にぎわい」はあくまでも商業がにぎわいというイメージだが、この中には市民間の若い人たちが楽しく過ごすことが「にぎわい」と捉える方もいる。

岩手県のオガールはバレーボールに特化し、中核としたこともあり人口が増え、そこから波及した施設も増えている。中核となるものを決めたことによって派生したものとみるならばオガールを勉強課題としておくのもありだと思うし、図書館に特化したものとすることでもよいと思う。

<委員>

ほかの拠点との住み分けという観点では、近くにオープンしたくわまるプラザにプレイルームがあるので、図書館の子育て関連のものを移行してみるのも面白いかと思う。歩いていける距離なのであえて住み分けることで図書館に空いたスペースを違う使い方ができると思う。また、伊勢崎駅の南口にも大きい広場があるので、拠点で検討している広場についても違う活用の方法があるのではと思う。

<委員>

新しい図書館にはヤングアダルトコーナーの充実を望む。お友達と話しながら過ごせる場所、ひとりでも静かに過ごせる場所という意味で、どちらかというとほかの利用者からは隠れた場所にできたらよいと思う。

図書館は居場所（サードプレイス）の観点で、多様な学びに適した場所だという気がする。今の学習室は外から見えるようなガラスづくりになっているが、薄いカーテンをするなど視覚的にも静かにできる場所がよい。加えて相談室のようなものがあるといいと思う。図書館はいろいろな見方をすると、本を通して自分自身の悩みや生活の質、考え方の質を上げてくれる宝庫である。

「にぎわい」を考えたときに、人がわいわいするイメージではなく、その基盤には商業・産業が成り立つというのが大事だと思う。図書館は0から9まで十分類法で本が揃えられているが、情報とロボットが十分類法の中にはなく、現在は現場対応となっており、分かれて置かれていることもある。新しい図書館ではきちんと配架して、企業・スタートアップにも続けていただければと思う。起業家の体験談などは通常であれば文学に分類すると思うが、技術工業分野などに置いていただくなどの工夫や、ビジネス支援の窓口も作り、企業診断士相談に加えてビジネス支援書をす

ぐ紹介できるような司書も置くなどの窓口があつてもよい。学生や若い商店街のキーマンに当たるような方が、定期的に来られるような図書館だったらよいと思う。

<委員長>

「にぎわい」とはなんのかということで、商業的なものなのか、交流の拠点なのかという議論があったが、ここでのにぎわい拠点は商業ではなく交流の拠点だと思う。なぜかというと、商業的な機能、ここで購買が生まれるようなものは機能として入っておらず、意見としてもなかつた。この拠点で最初に来場者の琴線に触れて人を呼び込むフックはなにか考えた時に図書館となると思う。特徴的な図書館を作り、そこからたくさん的人に来てもらうために、図書館本来の機能に交流が加わることによって実現できる「にぎわい」を作っていくたいという考え方でよいかと思う。たくさん人が来るようになつたらそこにビジネスチャンスが生まれ、周りにカフェができることも考えられるから、カフェを無理に入れる必要はないと思う。

また、駅前でやるような音楽イベントをここでやる必要はなく、中心市街地の3つの拠点（駅前広場、くわまるプラザ、新図書館）との機能分担や、図書館が移設することにより生まれる跡地の活用を検討すべきであつて、駐車場も含めた新しい機能を検討すべきということを、図書館の跡地も含め、より文化的な香りが生まれるような中心市街地として検討されることが望ましいなどを提言に加えることもよいと思う。

もう一つ、インキュベーションをどう捉えるかだが、産業に結び付くようなものなのか、NPOの延長なのか、例えば、高校生が将来起業したいという話も将来的に一部上場する企業になりたいとか、先端技術をもとにしたなにかをやりたいという大げさなものではなく、むしろクレープ屋さんや花屋さん、あるいはこれからのことを考えると子ども食堂など地域課題を捉えたコミュニティビジネスやソーシャルビジネスをやりたいというものであり、その中の相談支援が求められるのではないか。

最後は、駐車場と広場の関係をもっと考えなくてはならない。規模感として提示されている中で、建物の1階部分をピロティにするなどの工夫をしているが、算定根拠はこれでよいのかということも含めて、もうひとつ検討を加えて欲しい。

にぎわい創出は拠点だけで生まれてくるものではないというのに加えて、ウォーカブルなまちができるような検討も加えていただきたいという意見が出ているので、事務局で再度整理してもらいたい。

<委員>

にぎわいの拠点が商業ではなく交流となってくると、インキュベーションが創業を支援する場所であるなら、ここではどういうことができるのか、実際に創業した人がどのようにしていくのか、創業後の支援も大事だと思う。

広場はただ広いだけでなく、図書館に緑がつながった遊歩道や、図書館のまわりも休息ができるような余白もあると思う。

また、中心市街地にはベイシア I S がなくなり、カルチャースクールができるところや市民が発表する場所がなくなってしまったので、そのようなところが図書館にできたらよいと思う。

<委員長>

市民ニーズとしてソーシャルビジネスに対するものはある、高校生もお試し開業のようなものもやりたいという思いもあると思う。興陽高校では自分のところで作った特産品を売れたらよいという意見も出た。実際に日常的にやるのは時間もなくできないが、いろいろなことにチャレンジしたいという気持ちを持っていると思う。どうやって引っ張り出すかとなったときに、相談窓口業務が大事で、チャレンジショップのようなものがあることだと思う。時間帯で分けて昼と夜で違う使い方をするなど多層的にものごとを考えて同じ部屋でも使い勝手を変えることによっていろいろなものが生まれてくる。

ギャラリースペースについても同様で塩尻市市民交流センターえんぱーくの例にもあるように図書館の壁を使うという発想もよいと思う。今まであまり使われなかったスペースだが、壁をうまく使えば展示スペースも増えてくる。デザインに関わってくるものなので、使い方の部分に展開していくば面白いと思う。

<委員>

スマールビジネスやコミュニティビジネスなどのスタートアップは、コワーキングスペースから始めてみようという方が増えてきている。

コワーキングスペースを運営されている方が大事にしているポイントはどこかを調べたが、皆さんおっしゃるのが人だということ。コーディネーターの役割が大事で、スペース内に入る小規模事業者や個人事業主をマッチングさせて事業展開させていたり、定期的に簡単にできるイベント（コーヒーブレイク・勉強会）によってスケジュール感を埋めて、入っている方達がお金を払う価値を感じるところをコーディネートすることが、必要とされるコワーキングスペースであり続ける中で重要な点だと思う。

インキュベーション機能としてコワーキングスペースを入れるのであれば、そういうことができるコーディネーターを入れることを予め考えてもらいたいと思う。

<委員>

小さいソーシャル的なことから始まるのがインキュベーションでよいと思う。小さいところから初めて、まちへ出ていくというのがよいのではないか。にぎわい創出拠点なので、インキュベーション施設は小さなものを育てていくことを明らかにした方がよいかと思う。

<委員長>

【議論の整理】

1. 拠点整備の位置づけと拠点の役割の明確化について
様々な交流による「にぎわい」を生み出す拠点（中心となるの

は図書館）として、交流の中から経済的な活動が生まれ広がることを通じて、周辺地域への商業・経済活動が誘発されることに期待したい。

また、中心市街地の3つの拠点（駅前広場、くわまるプラザ、新図書館）での機能分担を明確にし、連携を通じて、中心市街地全体が歩いて楽しめるまちづくり（ウォーカブルなまちづくり）が展開されることに期待したい。さらに、現図書館の跡地についてもにぎわいの一助となるように利用活用方法の研究に努めてほしい。

2. 図書館機能について

新しく整備される図書館については、市民が近場の図書館ではなくわざわざ訪れたいと思わせる特徴的な図書館となるよう検討を深めていただきたい。

また、定休日や開館時間、特徴的な本の配置等の運営面での工夫に加え、ゆとりのある開架スペース、エントランスの演出等のデザイン的な特徴づけ等にも工夫を講じられたい。

3. インキュベーション機能について

市民のニーズを想定すると、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスの創出への支援が期待される。インキュベーション機能として、初動期の支援としての設備・装置設置やコーディネーターによる支援や運営形式も含めて、当該拠点での整備イメージをさらに研究されたい。

また、チャレンジショップ等の自走できる仕組みや空間づくり等への展開が中心市街地の中で準備されることにも期待したい。

4. 駐車場・広場について

駐車場から「にぎわい」が生まれることはない。そのため広場空間を確保すべく配慮されるとともに、近接地の広場との一体的な活用が可能となるように配慮に期待したい。

駐車場の運営についても、図書館来訪者用の駐車場としての限的な利用だけでなく多様な利用を想定するとともに、料金徴収等についても研究を深めていただきたい。

以上を本日のまとめとしたいがよいか。

<委員>

異議なし

閉会

※委員の所用により途中退席されたため、翌日に書面にて討議テーマに関する意見の提出があった。